

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

6/10

論述ブースト No.16

生殖補助医療・不妊治療を論じる —— 技術の可能性・倫理・当事者支援を3軸で

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。生殖補助医療の小論文で「不妊治療で子どもが生まれるのは良いことです」という一面的な答案と、技術の可能性・倫理的課題・当事者支援という3軸で構造的に論証した答案の評価の差を、審査側として繰り返し経験してきました。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 生殖補助医療・不妊治療の小論文

東京大学・慶應義塾大学医学部・東京科学大学の推薦入試では、「生殖補助医療の進展がもたらす問題を論じよ」「代理出産の是非を論じよ」という小論文が出題される。技術の可能性・倫理的課題・当事者支援の3軸で論証できる受験生は採点者（大学教員）に際立つ。

② 生命の始まり・遺伝子操作の倫理問題

「着床前診断は許容されるか」「代理出産における子どもの権利」という倫理的問いは、医学部推薦入試で出題される。生命倫理の枠組みで論じられる受験生は感想論述との差が歴然とする。

③ 面接での「生殖補助医療の課題」

医学部面接で増加しているテーマである。3軸で即座に論じられる受験生は試験官（大学教員）に「現代医療の課題を考えている」と評価される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学・慶應義塾大学 医学部	生殖補助医療の可能性と問題の小論文	3軸の論証枠が一面的な答案との差を生む
東京科学大学	生命倫理・着床前診断の論述	倫理的課題の視点が論証に深みを与える
横浜市立大学・奈良県立医科大学 医学部	生殖補助医療・当事者支援の論述	当事者支援の軸が採点者（大学教員）に際立つ答案を生む
医学部推薦・総合型選抜（全般）	「生殖補助医療の課題」型の口頭試問	3軸で即答できる受験生として採点者に印象を残す

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

生殖補助医療の論述を「不妊治療は良いことです」という一面的な記述で書く受験生は、採点者が求める「多角的論証力」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）技術の可能性・倫理・当事者支援の3軸で論証できる、（2）着床前診断・代理出産の倫理的問題を論じられる、（3）面接で生殖補助医療の課題を3軸で即答できる、という変化が起きる。

何十年も医学部の小論文・面接を審査してきた清光学院の講師陣は、生殖補助医療論述で「一面的な答案」と「3軸で構造的に論証した答案」の評価の差を採点者として知っている。